

第1学年 道徳科学習指導案

1 主題名 生命の尊さ D- (ア)

2 資料名 「ありがとう」(出典 日本赤十字社 まもるいのち ひろめるぼうさい)

3 授業構成の意図

1学年の生徒は平成20～21年生まれ、東日本大震災の際には2～3歳であった。各種メディアの情報により、震災において甚大な害を被り、多くの方が亡くなったことは知っているが、震災を実際に体験したことを覚えていない生徒が多く見られる。

明るく、素直な生徒が多いが、時折、中学生としてよく見られる他人の気持ちを考えずに生命軽視の軽はずみな言動をしてしまう場面が見受けられる。アンケート結果からは、「いのち」を深く考えることができず、自分の「いのち」は自分のものであると単純に考えている生徒が多い。そこで、【生命の尊さ】の内容項目である道徳教材を中心に単元構成を行い、その中で本時は日本赤十字社出典の『まもるいのち ひろめるぼうさい』から「ありがとう」を扱い、自分の意見や考えを登場人物と重ね合わせることで、自らの生命の大切さを深く自覚させるとともに、他の生命を尊重する態度も身に付けさせることをねらいとしたい。

東日本大震災が発生した時、本地域も大きな揺れを感じ、断水や土砂崩れ、放射線による被害が出た。過去の各種メディアの情報もあり、生徒は東日本大震災がどのような災害であったか考えることができるだろう。しかし、主人公のような本当に悲惨な状況を想像するのは難しいため、登場人物の心情を通すことにより、自分自身の意見をまとめやすくなると考えた。また、意見を交換する中で、他の人の考えも吸収し、より広い視野で考えられるようにするため、今回はペア、そのあと全体で意見交換を行わせてみた。最終的に、自らの生命の大切さを深く自覚させるとともに、生命を大切にすることは、家族など周囲の人を大切にすることにつながることで、加えて、日常生活においては、人に対してやさしさと思いやりをもって生活することにもつながるといふことにも気づかせたい。

内容項目D- (ア) は、主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関することで、「生命の尊さについて、生命のかけがえのなさについて理解を深めるとともに、生命の連続性や有限性なども含めて理解する」ことをねらいとしている。生命尊重とは、まず自己の生命の尊厳、尊さを深く考えることである。生きていることの有難さに深く思いを寄せることは、必ずや自己以外の生命をも同様に大切にすることははずだという予想と期待があるからである。そこで指導に当たっては、単に自己の生命の尊厳について考えるだけでなく、生命あるものは互いに支えあって生き、生かされていることに感謝の念をもつようにすることが大切であると考え。今回は実際に被災した東日本大震災を題材にし、主人公の立場を自分に置き換えて考えることを通して、生命を尊重する気持ちが持てる生徒を育みたい。

4 授業の計画 (総時数5時間)

時	場面	『資料名』: 学習活動 (夢中に学んでいる姿)	資質・能力
1	考える 対話する	『あなたはひかり』《7月道徳》: 自分自身の「いのち」の在り様を見つめ、「いのち」を大切に輝かせていくことについて考えている。	自分の大切な「いのち」という自覚のもとに、輝いて生きることについて具体的にイメージを持つことができる。
2	考える 対話する	『いのちって何だろう』《8月道徳》: 「いのち」とは何か? ということについて、多面的・多角的に考え、自分の「いのち」をじっくり見つめようとしている。	作者の問いかけを自分のこととして捉え、「いのち」の大切さについて自分の行動を振り返ることができる。
3 構	考える 対話する	『ありがとう』(出典 日本赤十字社 まもるいのち ひろめるぼうさい): 登場人物の気持ちに近づけるよう積極的に自分の考えを話すとともに、他の生徒の考えも聞こうとしている。	自己の生命が、心身ともに健康で、人間性豊かな思いやりの心がある人間関係の中で保たれていることに気付くことができる。
4	考える 対話する	郊外学習《東日本原子力災害伝承館》の事前学習: 伝承館で何が学べるのか、事前に震災で受けた様々な影響を考えている。	伝承館で学べることに興味を持つとともに、震災で受けた様々な影響について考えようとしている。
5	習得する	郊外学習《東日本原子力災害伝承館》: 未曾有の複合災害の経験や教訓、復興の歩みについて積極的に見聞きしようとしている。	震災の被害状況や復興の歩みについて、興味をもって見聞きしている。

授業を通して育成したい子どもの姿

日頃、生命軽視の軽はずみな言動をしてしまう生徒たちも教材の中の身近な人の死に接する(死にせまる)場面から「いのち」がかけがえのないものであることを理解することで、生命を尊重する態度が育まれることから、日頃の生活においても人に対してやさしさと思いやりの心を持って接していこうとする姿

5 本時のねらい

生命の尊さを多面的多角的に捉えさせ、いのちの大切さを深く自覚させるとともに、また、このことが日頃の生活の中における人に対してのやさしさと思いやりの心で接する姿にもつながることに気付かせる。

6 学習過程

学習活動・内容 (T主な発問・C生徒の反応)	時間	形態	○指導上の留意点 ◎研究主題に迫る手立て ◇評価
1 アンケートの結果から「いのち」について考える。 (1) 事前のアンケート結果を確認する。 T: アンケートの結果を見てどう思ったか。 C: 友人と「いのち」に対する考え方が同じである。 C: 自分では思いつかなかった意見がある。	3	斉	○ 学級の生徒が「いのち」に対しての考えを共有するために、アンケート結果をプロジェクターで提示する。
2 東日本大震災で起きた被害のデータから当時の被害を振り返る。 T: どれだけの被害を被ったのか、データから振り返ってみよう。 C: 死者・行方不明者の数が多い。 C: 死者のほとんどが溺死ということは津波によるものだ。	3	斉	○ 東日本大震災の被害の状況をデータでプロジェクターに提示する。
3 資料の朗読を聞き、どのような場面から「いのち」というものをどう捉えたかをワークシートにまとめ、発表する。 (1) 各自、「いのち」をどう捉えたかまとめる。 (2) 全体で発表を行い、他の考えを聞き合う。 T: このお話のどんなところから、「いのち」というものがどんなものであると考えたか。 C: 元気でいる人が突然いなくなる→「唯一」 C: 自分の命は、誰かのおかげで助かった→「感謝、愛」 C: もしかしたら自分も命を落としていたかもしれない→「偶然」 C: 誰かの分も生きていく覚悟ができた→「責任、前進」 C: 今自分は生きている→「感謝」	20	黙	○ 生徒たちがどう捉えたかを机間巡視して確認し、様々な捉え方を発表させたい。 ○ 他の考えを数多く聞くことで、生命の尊さを多面的多角的に捉えさせたい。 ◎ 様々な捉え方を発表させることで、生命の尊さというものは多面的多角的な捉え方があることを理解させる。
4 3を受けて、「いのち」の捉え方に対して今までの自分(事前アンケートに記入済み)と比較しながらまとめ、発表する。 T: 「いのち」の捉え方がどう変わったか、今までの自分と比較しながら変化した自分がわかるようにまとめてみよう。 C: いのちを大切にすることは当然だが、これからは、支えられて生きていることに感謝するとともに、家族を大切に、友達に対してやさしさと思いやりをもって生活していきたい。	15	黙 ペア 斉	○ 「いのち」は大事なもので大切なものであるというきれいなごときで終わってしまうのではなく、自分が「これからどうありたいか」「どのように生きていきたいか」を考えさせることで、「いのち」を深く捉えさせたい。 ◎ 今までの発表で出た様々な考えも参考にして、自分ごととして具体的に書くように助言する。
5 友人の考えを聞き合い、「いのち」を大切にすることは、どういうことだと思うか。日頃の生活においてできることをまとめる。 自分のいのちを大切にすることは、家族などの周囲の人を大切にすることにつながる。また、それは日頃から人に対してやさしさと思いやりをもって生活することである。	5	黙 斉	◇ いのちを大切にすることの具体的な事柄を含めて書いているか。 (ワークシート) ◎ つらい経験をしたのに、前向きに強く生きようとする姿から「いのち」を大切にしていることの実例の例を伝え、前向きに生きていくことの大切さを実感させる。
6 資料:「福島で育った私たちの思い〜『東日本大震災から10年』特別企画〜」を読む。	4	斉	

7. 板書計画

「いのち」を大切にすることは、どういうことだと思うか。	「いのち」の捉え方がどう変わったか。 ○ 誰かの分も生きていく覚悟ができた→「責任、前進」 ○ もしかしたら自分も命を落としていたかもしれない→「偶然」 ○ 自分の命は、誰かのおかげで助かった→「感謝、愛」 ○ 今自分は生きている→「感謝」 ○ 元気でいる人が突然いなくなる→「唯一」	「ありがとう」 プロジェクターの画像投影
-----------------------------	---	-------------------------